

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800030		
法人名	堀建設 株式会社		
事業所名	グループホーム 悠心彩・中西		
所在地	島根県益田市市原町イ434-1		
自己評価作成日	平成30年12月22日	評価結果市町村受理日	平成31年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成31年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

早いもので事業所も11年目を迎え、開設当初より入居された方も1名しかおられず、入居者様も随分入れ替わりがありました。地域との交流についても、可能な限り交流を深める事に努め、ご家族様との交流にも努めて参りました。新たな取り組みとして、ご家族様と一緒にモニタリングを行ったり、面会簿にご家族様よりのご意見欄を設けご記入をお願いして、ご家族様よりの要望をお聞き出来対応が出来ました。今後もご本人やご家族様の意向に沿った支援に努め、スタッフ一同、ご利用者の皆様が、健やかに、穏やかに、にこやかにを目標に努めて参りたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は、利用者、家族、職員にとって最善のケアサービスとは、を考え、タブレット端末を利用した記録システムの導入により業務の効率化を図るなど業務の改善を行い、利用者の「介護」をさらに寄り添ったケアにするための構想を立てて取り組んでいる。10周年記念祭には、近所の人を送迎して招待したり、新たなボランティアとの交流など関係が広がっている。小・中学生の来訪時には認知症の特徴や介護の意味などを伝えて利用者の不安や混乱が無いように工夫し交流を継続している。「看取り介護計画」に基づいて話し合いを重ね、音楽が好きな人には音楽を流したり声がけを細やかに行きその人らしい最期の関わりをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念はスタッフ全員が見える様にホール2カ所に掲示しており、今年も継続して朝礼時に声に出して復唱し意識を高めている	掲示や、朝礼で唱和し意識付けしている。理念に沿った個人目標を立て、「利用者の立場」になり言葉かけや対応を話し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で毎年行われている盆踊りや文化祭など、地域との交流を計りながら保育園、小中学校との交流も継続しつつ、新たなボランティアもお呼びし、交流の幅を広げている	地域や事業所の行事を通し交流ができるように関係を築いている。自治会の総会で介護関係の話をしたり、他の事業所の利用者との芋掘りや新たなボランティアなどとの交流が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者行事に参加を促したり、地域の総会に出向き施設の活動や認知症について説明させて頂き理解を深めて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議前には事前にテーマをお知らせし、ご意見を求めやすく行なっている。順次ご参加を頂き全ご家族様が推進会議について理解している。ご家族様よりの意見はスタッフ研修で全員に伝えケアの確認を行っている	取り組みや利用者の状況を伝え意見や助言を貰いサービスに活かしている。家族会アンケートや身体拘束廃止への取り組み、職員のストレスチェック実施などを報告し活発に意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議にご参加頂き、事業所の活動状況については報告させて頂いている。又、他の事業所の取り組みや動向についてもアドバイスを頂き、お互いの協力関係を築いている	主に運営推進会議で状況や取り組みを報告している。利用者との関わり方や業務改善の報告に感想を貰ったり、疑問点があればその都度相談し助言や協力を得て取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今回新たに身体拘束廃止へ向けた取り組みを指針に基づき実施している。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回行い、結果を全職員に周知、徹底している	指針に基づき身体拘束自己点検表で振り返り、理解や確認を行い共通認識している。「高齢者虐待の前兆を示すサイン」の研修に参加し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止に向けて研修を実施している。毎月1回接遇の反省も行いながらケアの振り返りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修への参加を促し、職員に理解を深めてもらっている。スタッフ研修でも自立支援について話し合いを持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご本人やご家族様へ詳しく説明して理解を頂き、また、ご家族様からの質問にも適宜説明を行い同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で直接ご家族様より意見を頂いている。結果はスタッフへも伝達を行っている	10周年記念祭と兼ねて家族会を開催し交流や要望を聞く機会を設けた。今年度は面会簿に意見、感想を記入して貰ったり、家族アンケートの結果について運営推進会議で報告し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ研修に管理者や代表者が参加し、業務の改善点について話し合っている。言いたい事カードの設置により直接代表者へ意見を求める事が出来ている	毎月のスタッフ研修で意見や提案を聞く機会を設けている。職員が個人目標を立て実践できるように取り組んでいる。全職員にストレスチェックを実施し職員の負担軽減や業務改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者を優遇し、やりがいのある職場作りを目指すと共に給与水準の向上を図り職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から研修案内があれば各職場へ掲示し研修を受ける機会を確保している。また、資格取得への配慮も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	益田、鹿足圏内のGH管理者の会議に毎月参加し、情報・意見交換を行っている。また、年2回他のGHスタッフと研修・グループワークを行いお互いのサービスについて意見交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人やご家族様を含めて施設見学を行っていただいている。入居時には、要望等時間をかけゆっくりお聞きし、再確認する事によって安心感を持って頂いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前の段階で不安要因や要望について確認し、再度サービス導入時点でも再確認を行い、信頼関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前には施設的环境や雰囲気など知って頂く為、事前に来所して頂いたり、体験利用が出来る様に配慮している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の役割が持てる様、能力を見極めながら支援を行っている。また、スタッフは他の入居者と共に共同生活が送れる様見守り、支援を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には出来るだけ面会の機械が持てる様に行事への参加を促している。面会の機械が少ないご家族様に関しては電話で様子をお知らせし、関係作りを維持している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで生活を送ってきた地域について話したり、ドライブ等で近くを通った時話題にしたりして地域との関係性の継続に努めている。一人の入居者様は1か月に1回自宅で娘さんと一緒に3泊4日過ごされる	時季に名所の花を見にドライブしたり、地域行事や催しに参加し、馴染みの人と挨拶を交わし、関係が途切れない支援に努めている。墓参り、行きつけの散髪屋に行ったり、毎月自宅で家族と過ごす人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が毎日楽しく安全に生活が送れる様、スタッフは常に見守り・声掛けを行っている。行事やレクリエーションでは全員で楽しめる様配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご本人・ご家族の経過をフォローし、いつでもご家族やご本人の転居先からの相談に応じ支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向が把握しにくい場合は、ご本人の状態に応じてご家族の意向に沿った支援を心掛けている	生活歴や家族からの情報を把握し一人ひとりがしたいことを生活の中に取り入れその人らしい暮らしになるよう支援に努めている。職員は、利用者の立場になり本人にとってどうかを話し合い対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のこれまでの生活や、馴染みの環境等をご本人やご家族より情報収集を行い、施設内での生活に活かして支援を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間でご本人の生活状況について情報交換を行い共有し、支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎回ご家族様を含めて担当者と一緒に実施している。面会が少ないご家族に対しては電話で状況報告をし、ご家族より意見を伺っている	利用者や家族と話し合い、その人らしく暮らすため「生活リズム表」を更新、追加したり、面会時を利用して家族参加のモニタリングを実施している。毎月家族と数日自宅で過ごすなど思いを介護計画に盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については個別に毎日記録を行い、課題があればケアマネを含めカンファレンスを行い、対処・実行している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望により、予定外の外出や外泊に柔軟な対応を実地している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中西地区の文化祭に参加している。作品を出展し展示物・催し物を観覧したり、盆踊り等の行事にも参加している。保育園児・小中高生ボランティアとの交流等も楽しめる様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医の往診を受けている。ご本人・ご家族の希望を大切に、馴染みのかかりつけ医の受診を受けられる様支援している。必要時には医師・ご家族と相談の上で他の医療機関の受診も行っている	利用者、家族の希望のかかりつけ医を継続し適切な医療が受けられるよう医師、家族と連携して支援をしている。家族が付き添う時には状態や状態変化を詳細にデータで表し持参して貰い情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での情報・気づきを常に看護師に伝え相談している。緊急時・必要時にはご家族・医師との連絡調整も行っている。適切な受診や看護を受けられる様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設内での生活状況について情報提供をしている。入院中は面会に行き様子について情報交換や相談をし、早期退院に向けて支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの意向を確認している。健康状態に変化があればその都度ご家族に報告している。ご家族と、重度化や終末期に向けた意向を話し合い、事業所で出来る事を十分に説明し方針を共有し個別に支援している	看取り指針を作成し、状態に合わせ家族や関係者と話し合いを重ね「看取り介護計画」を立て統一した支援に取り組んでいる。好きな曲を流したり家族も泊まれるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を2年に1回全職員が受講出来る様に配慮している。AEDを設置し救急対応に備えている。地域の方も使用可能で働きかけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を問わず避難・消防・災害訓練を定期的実施している。災害時の訓練では実際に避難所へ全員避難する訓練も行っている。職員への緊急連絡網に関しても一斉メールでも連絡が取れる体制を整えている	消防署立ち合いの火災訓練や自主訓練で避難訓練などを行っている。今年度は職員一斉メールを実施し、緊急時の連絡が取れるように非常時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に対してプライドを気付け ない様に言葉遣いや行動に気を付けて対 応している。毎月職員は接遇に関する振り 返しを行っている	職員は個人目標で言葉がけや対応などを振 り返り尊重したケアに取り組んでいる。排泄 の声がけは周りに聞こえないように耳元で 行っている。食事介助や見守りの声かけも利 用者のペースを大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	利用者様の訴えに耳を傾け、気持ちを話し て頂き希望に添える様に努めている。日常 生活においても、ご本人の好みや希望を聞 き、自己決定を支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活パターンに応じて、柔軟な支援 を実施している。急なニーズにもゆとりを 持って対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	ご本人の要望や希望があれば自分で選択 して頂き、おしゃれや身だしなみを楽しんで 頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事の準備も出来る方には参加して頂き一 緒に準備して頂く。毎日献立を発表してもら い、食事は職員と一緒に楽しみながら食べ て頂いている。片付けも役割を分担しながら 一緒に行っている	食器洗いやテーブル拭きなどできることを職 員と一緒にしている。柏の葉を採ってきて柏 餅を作ったり、重度の人一人ひとりに合わせ て食べやすい工夫をし、さりげない声かけを 行い自分で食べられるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	個々の健康状態に応じ、看護師に相談しながら 食事量・水分量を確認している。食事の形態に 関しても、摂取状況や健康状態に応じて変更して いる。体重の減少が著しい場合や健康状態の悪 化があれば主治医に報告し指示をもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	個々に応じて、歯磨き・うがい・ガーゼで拭き 取り・義歯洗浄を行い、口腔ケアを実施して いる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、各自に合ったトイレ誘導を行っている。日中は出来るだけトイレで排泄出来る様支援している	一人ひとりの排尿間隔を把握して利用者に合わせて声がけや見守りを行い支援している。歩行介助が必要な人は夜間は本人にコールをして貰いトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表により排便状況を確認。便秘傾向にある方には看護師の指示で個々に合った下剤を調整している。又、毎日の水分量の確認・食前体操・散歩など各自に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望・気分やタイミングに応じた入浴を支援している。脱衣場も適温にし、各自に合わせた好みの湯温でゆっくり入浴して頂いている	利用者の入浴のタイミングや好みの湯温、ゆっくり浸かりたいなど、一人ひとりの気持ちを尊重し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明・温度等の環境を整え、気持ちよく眠れる様寝具は清潔に保っている。日中も各自に応じた時間帯で居室で休息を取っている。又、ホール内の畳やソファでいつでも休まれる様な配慮もしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬文献綴りにより各自がどんな薬を処方されているか職員全員が知ることが出来ている。服薬の変更及び臨時薬が処方になった場合は看護師より報告・指示があり、情報の共有をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の生活歴等を理解し、各自にあった出来る事を見つけ生活面での支援を行っている。毎月の行事参加やドライブ等で気分転換出来る様努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候をみて敷地内での散歩・日光浴などを行っている。季節に応じた行事でのドライブを兼ねた初詣・花見・ぶどう狩り・地域の文化祭など地域の方とも交流がもてる様支援している	外に洗濯物を干したり、庭の散歩やテラスで体操、お茶を飲んだり日光浴するなどしている。時季に合わせて花見やブドウ狩り、マラソンの応援などに出かけ外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人は所持されておられないが、必要な時にはご家族様に連絡し対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話や手紙の支援を行っている。又、ご本人宛へ電話があれば直接電話口で会話を楽しんで頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では毎日環境整備を行っている。(掃除・室温温度・照明等)ホール内から窓の外の景色をみてもらったり、花と一緒に花瓶に生けたりして季節感を感じて頂いている	季節の花を所々に活けたり、手作りカレンダーや作品などを飾っている。ホール内の畳やソファでいつでも過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には他の利用者と自由に交流が出来る様、テーブル席や畳ソファ等設置されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れた家具や寝具を持ち込んで頂き、ご家族と一緒に部屋の飾り付けを楽しんで頂き、ご本人が居心地よく過ごせる様工夫されている	利用者や家族と話し合い、ぬいぐるみや家族写真を飾ったり、筆筒、衣装ケースなどを持参し安心して過ごせるように配置している。テーブルと椅子を置き家族と一緒に過ごす人もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には各自表札があり、廊下には手すりが設置、椅子もあり一時休息も出来る。お風呂場はわかりやすくイラストで表示され、一人でも行ける様に工夫している		